

## 沖積層ボーリングデータベースを用いた地質モデル構築の問題点

### Construction of 3D-geological model of incised valley fills including their sedimentary-facies distributions

# 石原 与四郎 [1]; 福岡 詩織 [1]; 江藤 稚佳子 [2]; 田辺 晋 [3]; 木村 克己 [3]

# Yoshiro Ishihara[1]; Shiori Fukuoka[1]; Chikako Eto[2]; Susumu Tanabe[3]; Katsumi Kimura[3]

[1] 福岡大・理・地球圏; [2] 朝日航洋; [3] 産総研・地質情報

[1] Earth System Science, Fukuoka Univ.; [2] AAC; [3] GSJ, AIST

沖積層のボーリングデータベースを活用して構築された地質・地盤モデルは、地下の地質分布、N値やその他の物性の分布を表現し、解析・解釈する手助けとなる。従来、このようなモデルは、研究者が個々のボーリング情報に対してそれぞれ検討を行い、地質解釈断面を描くことで構築されていたが、最近では、ボーリング情報の統計的な処理によっても、3次元地質・地盤モデルが構築されてきている(江藤ほか, 2008)。このような手法で構築されたモデルは、沖積層の堆積相分布の検討や堆積過程の解釈をする上でも極めて有効である一方(田辺ほか, 2008 など)、上記の統計的処理によるモデルは、必ずしも地層の形成過程を厳密に考慮して構築されたものではない。本研究では、地層の形成過程、すなわち、更新統と沖積層の区別、層相による物性の違いやその分布などの特徴をまとめた上で、これらを考慮した地質モデルの構築を試みた。